



遊戯施設のトランポリン 安全に遊ぶためのポイント

トランポリンは正しく使用しないとけがをするおそれがあります

✓施設のルールを守って遊ぶ

遊戯施設の利用規約や注意事項・禁止事項をよく確認しましょう。

✓1つのトランポリンは1人で使用

同時に2人以上で使用すると衝突するなどしてけがにつながる危険性があります。

✓初めての利用は 低めの高さから徐々に体を慣らす

安定した姿勢で跳べる、低めの高さから徐々に体を慣らすようにしましょう。
いきなり高く跳ぶことや、宙返りなどの危険な技はやめましょう。

✓高く跳躍できるトランポリンは 危険性を理解して、無理のない範囲で

ジャンプの高さが高くなるほど、衝撃が大きくなり、転落や墜落によるけがの程度が重くなります。公式競技で使用されるような高い跳躍が可能なトランポリンは特に注意が必要です。



くらしの危険 Number 360

遊戯施設のトランポリン 落下・転倒・衝突による事故に注意



トランポリン※は、スプリングまたはゴムケーブルで張られたベッド（ナイロン製の網）の弾力を利用して跳躍運動をする器具です。トランポリン競技やレクリエーション、リハビリテーション、他のスポーツ競技の技術練習などに幅広く利用されています。

屋内遊戯施設等で気軽に遊べるトランポリンですが、落下や転倒、衝突により骨折や神経損傷等の重大な事故が発生しています。遊ぶときは、正しい利用方法や危険性の理解が大切です。特に公式競技で使用されるような高く跳躍できるトランポリンは、無理のない範囲で使用しましょう。

※「トランポリン」はセノー株式会社の登録商標です。本資料の「トランポリン」は競技や遊び方の総称として使用しています。また、空気で膨らませる遊具である「エア遊具」は対象に含みません。



本内容の詳細は、独立行政法人
国民生活センター公式サイトに
掲載しています。
<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーは
こちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー
<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2021年 3月発行
イラスト: 川崎 敏郎

トランポリンに関する事故事例

消費者庁及び国民生活センターには、関係機関や医療機関からトランポリンに関する事故の情報が寄せられています。

事故の発生場所は**遊戯施設**が最も多く、**子どもの骨折**や打撲などのけがが多数報告されています。なかには治療に1か月以上要するけがを負う事故も起きています。

ケース 1 1つのトランポリンを2人以上で使用①

同じトランポリンで跳んでいた子どもと衝突し、**落下**。口の中から大量出血し、歯が抜けた。
(事故情報データベース、2019年9月、14歳男性、治療1週間未満)

ケース 2 1つのトランポリンを2人以上で使用②

トランポリンで遊んでいて転倒した際に、だいたいえんいたん左大腿遠位端（太ももの膝に近い部分）を骨折した。同じトランポリンでは**大人も跳んでいた**。
(医療機関ネットワーク、2017年4月、2歳女児、中等症)

ケース 3 難易度の高い技で失敗

学校のトランポリンで前方**宙返り**をしたところ、着地の際に右膝が右目に当たり、がんかいてい眼窩底（眼球のくぼみ部分）を骨折した。
(医療機関ネットワーク、2018年6月、12歳男性、中等症)

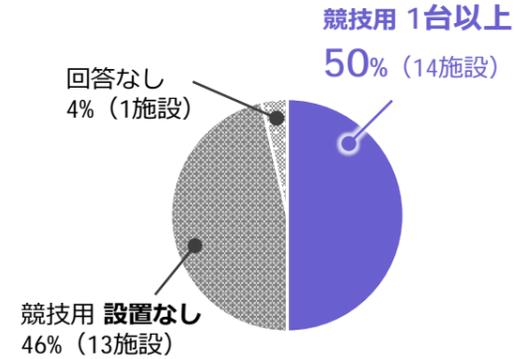
ケース 4 着地に失敗

トランポリン使用中に着地に失敗し左手をついたところ、どうこつどう左橈骨頭（前腕の肘関節付近）を骨折し、骨接合術のため入院した。
(医療機関ネットワーク、2017年4月、12歳男性、中等症)

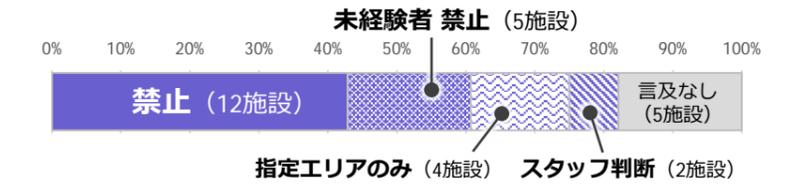
遊戯施設へのアンケート調査

●実施期間：令和2年9月8日～18日 ●消費者庁が実施
●集計対象：体操教室を除き、トランポリンで遊ぶことを主たる目的としている全国28の遊戯施設

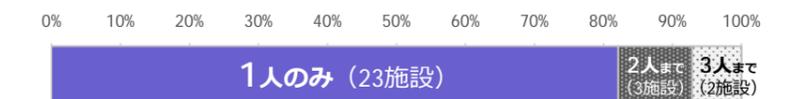
◇ 競技用トランポリンの設置台数



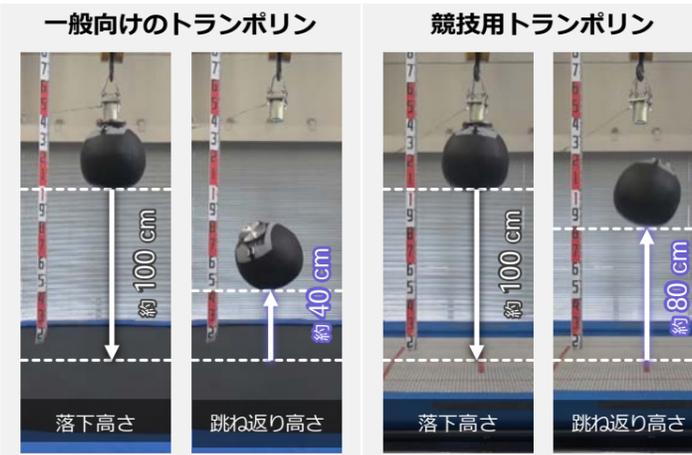
◇ 「宙返り」に関する制限条件



◇ 1台あたりの同時利用の人数制限



トランポリンを用いた実験

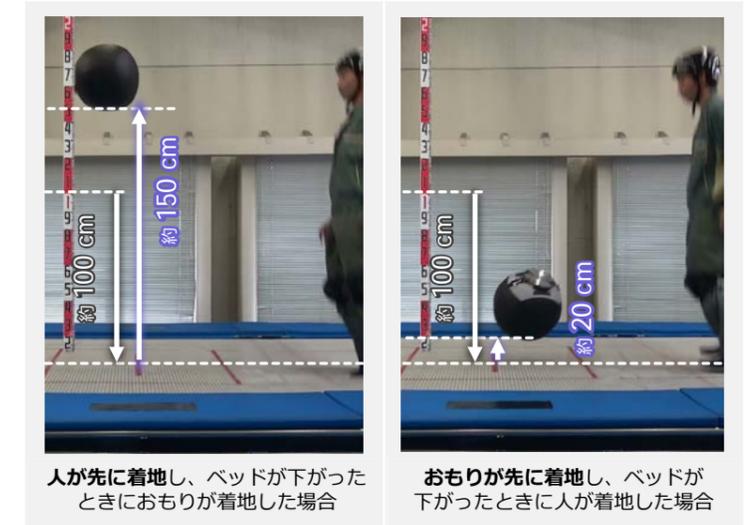


◇ トランポリンの違いによる跳ね返り高さの比較

一般向けと競技用のトランポリンに、約25kgのおもりを高さ約100cmから自由落下させたところ、**競技用トランポリンは一般向けに比べて高く跳ね返りました。**

◇ 複数人使用時の着地タイミングによる跳ね返り高さの変化

競技用トランポリンで約50cmの高さで跳躍を続ける体重約70kgの人の隣におもりを落下させたところ、**着地のタイミングによって跳ね返りの高さが異なりました。**



● この調査の詳細は、独立行政法人国民生活センター 公式ウェブサイトの発表情報「遊戯施設におけるトランポリンでの事故にご注意ください！ー骨折や、神経損傷等の重傷例もー」で見ることができます。